

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071101234
法人名	医療法人 恵光会
事業所名	グループホーム ライフエイド柏原
所在地	福岡県福岡市南区柏原1丁目2 - 46
自己評価作成日	平成23年11月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成23年11月24日	評価結果確定日	平成23年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ビル形式の所が多い中2階建ての施設で、庭にはテラスがある。藤棚やキーウイフルーツの木がありアットホームな感じである

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

病院を母体とする2階建ての建物である。近所には同法人の老人ホームもあり協力体制が出来ている。ホームの周りは建物が多く緑は少ないが、敷地内にはキウイや藤棚、畑等を作っており、自然を感じられるテラスもある。ホーム内も季節を感じる塗り絵や利用者が育てているお花が飾られており、整理整頓が行き届き清潔感ある生活環境である。外部訪問者が語る「アットホームでいいですね」の言葉通り、心温かさを感じるホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の理念「地域住民の1人としてその人らしく暮らし続けられることを支援します」を掲げ、みんなで共有し買い物や選挙にお連れしたり、地域の方にも支えられながら生活している	ホーム内に理念が掲示されており、職員全員で共有し意識づけするため、毎日朝礼で唱和している。より良いサービスを行うため日々話し合い、実践に繋げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの夏祭りなどにチラシを配り参加をお願いしたり、近所の買い物同行をしている	自治会に入会しており、地域の清掃、消防訓練等の行事に参加している。地域の方と関わることでホームへの理解を得られ、買い物、歯科、美容院等を利用する際も、快く受け入れて頂いている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が医療法人であり2ヶ月1回介護相談医療相談を行っている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表や町内会長 副会長 民生委員 近所の方 生き生きセンター福岡第7 法人関係者 管理者 職員等の出席により2ヶ月1回開催している。災害の際の避難場所としてお互いに提供の確認したり意見交換を行い医療介護の相談会も同時に行っている	運営推進会議は、2か月に1回開催されている。町内に、同法人のホームが3ホームあり、合同で行われている。会議場所は3ホームを順番に使用している。地域・他ホームについての意見・情報交換がされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方に分からない事や疑問に思う事を質問をしており、又親切に調べて下さり回答をいただいている	市から研修、イベント等の案内をもらっている。分からない事や相談など、親切に対応してもらっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本拘束はしていないが、やむおえないときは家族 スタッフと話し合いの上時に施錠することがある。	基本的に拘束はしていないが、利用者の安全を考え、家族より要望があれば、やむをえず施錠することもある。最近では職員の試行錯誤にて、十分な見守り・気配りで、日中の施錠は減少してきている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の研修会で研修会に出席した方の報告を聞いてみんなで共有しホーム内の研修会に出席できない人は報告書を読んで防止に努めている		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	説明資料を準備し契約時説明すると共に必要時には支援できるように体制が出来ている。・ホーム内の研修会で研修会に出席した人の報告を聞いてみんなで共有している。	入職5か月の新入職員も制度について理解している。職員は、研修出席者の伝達研修で共有している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	変更時説明 納得していただきサインを頂いている		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時家族の方の意見をを聞いている。又本人の希望があれば出来る限り対応している。	年に2回家族会を開催している。開催前にアンケートを取り、寄せられた意見に対して話し合い、報告している。結果は次回の家族会で評価していただくようにしている。また、参加者が少ない場合は日程を変更し、参加の声掛けをしている。目的を持った家族会を開催している。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム研修会を月1回開き意見交換をしている	ホーム研修会を月1回開いている。夜勤者以外は全員参加し、意見交換をしている。意見は現場で管理者に伝えられ、会議で報告している。新任、現任ともに意見を出しやすく、相談しやすい雰囲気である。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表を年3回書いてもらい、毎回確認している。又日々働きながら状況を把握して毎月のホーム内研修会で業務改善を行っている		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人全体で募集採用しているが年齢や性別などの条件はない。採用後は利用者とかかわりの中で職員の特技や趣味を日頃の業務で生かせるようレクリエーションや活動に取り組んでいる	法人全体で募集・採用している。ホームからの条件は出していない。現在では、19歳から65歳までの方が勤務している。資格取得、旅行、育児等の休暇も要望に応じて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム内の研修会で研修会に出席した人の報告を聞いてみんなで共有し、法人全体で接遇目標を設定しホーム内に掲示している。朝礼時に目標を唱和し管理者・職員はそれぞれが業務の中で遂行している	法人全体で作成した接遇目標を掲示し、毎朝朝礼で唱和することで意識づけ、日常生活支援に反映させている。	研修会に参加した同法人の協力を経て、勉強会を実施されることを期待する。
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で安全対策 衛生 接遇 感染の委員会があるり職員が所属し全体で学ぶ機会がある。新人職員には教育係りがあり新人教育プログラムにそって研修を実施し1ヶ月 3ヶ月の期間で評価を行っている。現任の職員は2ヶ月1回介護系勉強会を開いている。外部研修の案内にて必要な研修に参加し内部に伝達している		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者職員が外部研修に参加した際他の事業所と情報交換する機会があり同法人のグループホームとの交流はある。他の施設の見学を職員数名で行った事がある		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に面会をし初回アセスメントを作成するにあたりお困り事 要望など、お話を聞いている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回アセスメントを作成するにあたり家族の方よりお困り事 要望など、よくお話を聞いてケアプラン作成に生かしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族 担当部所 ソーシャルワーカーと話し合い連携をとる対応している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から生活の知恵を教えてもらったり、会話の中から知識等を知る事がある。お茶碗を一緒に洗ったり拭いたり、洗濯物をたたんだり出来る事を一緒にやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	週1回家族と共に外出されたり盆 正月は墓参りや外泊されたりする。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りなど家族と共に出かけている	利用者の状態が重度化し、自ら外出を希望される事が少ない。家族の希望にて墓参り、結婚式等への外出はあるが、外泊はあまりない。仲人を務めたご夫妻や勤務先の後輩等が来訪されたり、家族・兄弟からの電話にも対応している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で声掛け合ったりお世話をしようとする。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられたときは職員みんなでおまいりに行き、1周忌にはお花を贈り、家族の方からも連絡を頂いている。又入居者の家族が入院された時はお声をかけに行く。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族からの意見や要望、日頃の様子をホーム独自に作り上げたアセスメント表に具体的に記入している。又、6ヶ月に1回は再度アセスメント表を作成し、思いや意向の把握に努めている。	入居前からの趣味等を現在も継続されている。家族の方と一緒に畑仕事や草取りをされるなど、趣味を取り入れたプランができています。また、意思表示が難しい方には、職員が提供する塗り絵・歌・書道等レクリエーション等で表情を確認し、意向の把握に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで確認し把握に努めている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護の中で現状を確認しみんな把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを元に本人、家族を交えて担当者、計画作成者等が担当者会議を開き計画を作成し、ミーティングにて職員間で確認している、主治医からの意見や助言は受診時に聴きとっている。	介護計画は、利用者からの聞き取りと共に、事前に面会時や電話等にて家族からも意向を聞き取り、担当者会議にてプランを決定している。ミーティングにて評価し、その都度記録している。参加できない職員には情報を提供している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護を実践する中で現状を確認しみんなで情報を共有し、介護の実践に活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や美容室への付き添いを行う。法人が医療法人であり2ヵ月1回医療 介護の相談会を開いている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の中学の吹奏楽部の生徒さんたちが夏祭りに演奏をしていただき、敬老祭でボランティアのかたに歌ったり踊ったりしていただいている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望により主治医変更する事はある。基本3ヶ月1回定期受診している。他科においても希望する医療受けられるように支援している。	母体病院を受診する事が多く、職員が受診支援をしている。家族が希望される場合は支援をお願いしている。現在往診はないが、予防接種等には来ていただいております。往診の体制は出来ている。他科受診については、近所の病院を利用しているが、理解もあり優しく対応してもらっている。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2人の看護師がおり状態に変化があれば直に報告 必要に応じ受診をしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際主治医 担当部署の看護師と情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針をつくり必要に応じ本人 家族に説明し家族と同意書を交わしている。ホームでの看取り介護に関して職員も周知しており、ホーム全体で方針を共有している。	家族の希望があれば、看取りを行うようにしている。現在まで経験がないため職員に不安はあるが、管理者はそれを理解しており、研修会への参加や勉強会を行い、日常の介護の中でもアドバイスや指導をしている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しホーム内での研修会に参加異常の早期発見に繋がるように観察している。		
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回防災訓練を行い(1回は消防署立会い)自衛消防隊操方法大会等に参加し自己研鑽を行っている運営推進委員会で非常時に備え協力お願いしている。	年に4回、火災・水害・地震とあらゆる災害を想定した災害訓練をしている。訓練前には予行練習も必ず行われ、実践的なものとなっている。また、ホームは災害時の地域の避難場所になっており、地域の方へは、ホームへの協力依頼もしている。	備蓄品の検討を希望する。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に人格を尊重した態度で接するように掲げており心がけている。カルテや面会簿も工夫して、外部の人にわからないように配慮している。	面会簿、部屋のネーム、利用者の作品等細かいところまでプライバシー保護のための工夫をしている。また写真等の使用は入居時に同意書を交わしている。言葉遣いにも日頃から注意し、かた苦しくもなく、なれなれしくもならないよう細かい配慮をしている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食時やおやつメニューを聞いたり尿意にあわせ訴えにて排泄介助をしている		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も体調やペースにあわせ無理強いないように食事や睡眠時間を考慮している		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御家族と相談し美容室へお連れしたり、化粧品のお買い物にする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	数人であるが下ごしらえ（もやしのおねとり）に参加したりお茶碗を洗ったり拭いたりしている。外食もあり	利用者と職員がそろって食事をしており、静かではあるが会話や笑いがあり、とても家庭的な雰囲気である。手作りの食事に暖かさが感じられる。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量を決め出来るだけちかずけるよう工夫している		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時 毎食後口腔ケアをし観察している		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の希望や時間毎の排泄誘導し出来るだけオムツにせずトイレで出来るように心がけている	トイレへ行かれる方、訴えない方、寝たきりの方、一人ひとりに合わせたトイレ誘導を行っている。また、寝たきりの方も全員褥瘡予防ができています。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を使用しそれぞれ調整が上手くいってる。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴介助日は決まっているが時には希望でシャワー浴をしている。	基本は週2回入浴日となっているが、希望があればいつでも入れる状態である。対応出来ない場合でも、シャワー浴・温タオルでの清拭支援を行っている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠の確認をし夜勤者が睡眠の状態を申し送りしている。不眠の時はあったかい飲み物を飲んでいたり、時にホールでお話をする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から内容の説明書を頂いている。毎食後本人の口に入れてあげ飲み終わるまで付き添い観察している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時や家族の方のお話をお聞きし観葉植物の手入れや畑のお仕事をしていただいている。時に家族の方と一緒に畑仕事を行なっている。		
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム車でドライブで外出したり、外食したり、ホーム内のテラスでティータイムなど楽しんでいる。近くに買い物に同行したりする。	体調、時間等を考慮しながら、ホームの車でドライブへ行っている。買い物等には、いつでも行ける様にしているが、長歩きが難しい方は近所での買い物をしている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できない方はお預かりし、時にはお財布の中から自分で払っていただく。個々の支払い領収書(原本)すべてと出納長(コピー)をご家族来所時にお渡ししている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望がある時ダイヤルできない時はスタッフが取り次いでいる。かかってきた時は速やかに取り次いでいる。手紙を出したり受け取りなど支援している		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンやブラインドなどで光の調整をし季節の祭りの飾りをし家庭的な雰囲気づくり上げている。	台所と食堂が対面式となっており、利用者と会話がしやすい造りとなっている。壁には季節感ある塗り絵や歌の歌詞等が貼ってある。リビングでは、テレビのリモコンや雑誌等も自由に使用できるようになっている。掃除は利用者と一緒にしており、家庭的な雰囲気が感じられる。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファがあり利用者同士が語らえる場所を作っている。玄関先にテラスがあり時々茶話会をして楽しんでいる居室にテレビがあり1人で見るときもあり時々声掛けをする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用された家具や仏壇をもってきていただいている。本人が居心地よく過ごせるように配慮している	家具、仏壇、観葉植物等を持ち込まれており、一人ひとりの以前の生活がそのまま継続されている。整理整頓も出来ており、居心地の良い居室となっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており又廊下やトイレに手すりを備え個々の残存機能を生かした支援をしている。トイレや洗面所が分かるように大きく表示している。		